

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

秋の永代経法要のご案内

次のとおりおつとめいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

日時 十一月十六日 (火)

昼一時半 夜七時半

十一月十七日 (水)

昼一時半

講師 福岡県 小郡市 眞浄寺住職

三好慶祐師

◇ 昼間仕事の方は、ぜひ夜にお参り下さい。
◇ 昼、夜と続けて参って下さる方が多くなってきました。有り難うございます。

十六日(火)お昼の座に、ホワンシィ・コーラスの皆さんに歌っていただきます。皆さんも一緒に、楽しく歌って下さい。

歡喜合唱団
ホワンシィ・コーラス
Huānxǐ-Chorus



永代経法要とは

えいたいぎようほうよう

「いつまでも(えいたい)お念仏の

み教え(お経)が伝えられます

ように」と願い(ぶつとくさんだん)

またご門徒のご先祖が、志を納

めてお寺を護りお念仏を喜ば

れたことを感謝して(そおん)

報謝(ほうしゃ)お勤めする法要です。

ですから、「その心を大切に

受け継ぐ」ということは、「さ

そいあって法を聞き、如来さま

のご恩をよろこぶ」ということ

であります。



今後の行事予定

12月18日(土)14時

12月31日(金)11時45分

1月1日(土)10時

1月14日~16日

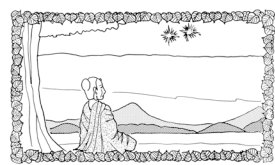
仏婦報恩講

除夜の鐘撞き

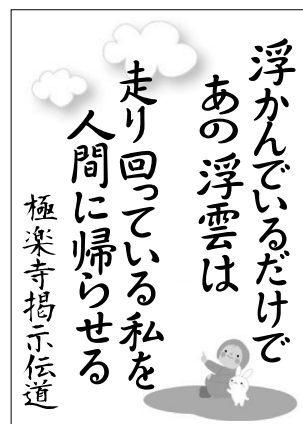
元旦会

御正忌報恩講





極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



9月の言葉

今年の夏は、本当に暑かったですね。酷暑という言葉がピッタリでした。そんな中、熱中症で倒れる方だけではなく、亡くなられた方さえありました。しかも、家の中で倒れる人も多かったです。どうして家の中で？と驚きますが、最近の家は気密性が高く、外気を遮断し、内部の暖房・冷房を逃さない造りになっています。快適さを求めることなのでしようが、それが裏目に出て、中に籠った熱の逃げ場がなくなってしまうのです。聞くところによると、昔の家は自然の風が入る方向を考えて、造られているとのこと。自然に振り回される一方、自然の恵みを受けて生きてこられたということなのでしよう。ところが、思い通りになるようにと、自然を遮断することで、このようなことが起こってしまいました。

今年の一月、NHKで『無縁社会』と題された番組が放

送され、大きな反響を呼びました。これまで生きる上での支えとなっていた、地縁・血縁・社縁というものを鬱陶しいからと切り捨てて、都合の良い人とだけ関係を結び、自分の世界に閉じこもる人が増えた時代。快適さと引き替えに、支えを失い、孤独の中に死んでいく人が何万人もいるそうです。それだけでは、ありません。自分の思いという世界では、自身がその思いに適わなくなったとき、今度は自らを蔑み、傷つけてしまうことさえ起こっています。逃げ場がないだけに、深刻なことになるかねえせん。

親鸞聖人は、「自分の思いというちいさな世界から、一歩踏み出して、私を包む大きな世界（阿弥陀無量なる世界）に出遇って下さい」と呼びかけられています。空に浮かんでいる浮雲を見つめるように。身体全体を通して自然の風を感じるように。そんな時「ああ、人間って、ちいさいなあ。」と思いませんか。ちっぽけなこだわりや傲慢さに気付かされるのではないのでしょうか。同時に、大きな繋がりの中に生かされているという、人間の事実（じじつ）に立ち戻らせて下さるのです。そんな生き方を「他力」の生活（せいかつ）と言うのだと教えられました。

臆面もなく
町を歩き
人と語り



なに食わぬ顔をしているが
お前自分の後姿を
見たことがあるのか
浅田正作
極楽寺揭示伝道

11月の言葉

今月の極楽寺揭示伝道

の言葉には、驚かれた方が

多いのではないでしょう

か。挑発的で怒られている

ような言葉です。これは、

いろいろな悲しみを通してお念仏の教えに出遇われた、浅田正

作さんという方の詩なのですが、何も、どこかの誰かに怒っ

ているわけではありません。「お前」とは、誰のことでもな

い、浅田さん自身のこと。つまり、阿弥陀如来との出遇いを

通して気付かされた、自身の深い内省の言葉なのです。

先月の揭示伝道の言葉は、「たった一言が、人の心を傷つ

ける たった一言が人の心を暖める」という言葉でした。私

たちは、周りの人の一言で、傷ついたり、暖められたりしな

がら、生きています。でも、それは同時に自分の言葉が、人

を傷つけているということでもあります。自分が言われたこ

とは覚えていますが、自分が言った言葉をどれだけ覚えてい

るでしょう。私は、どんな言葉を使っているのでしょうか。

先日、こちらから福島県に嫁がれた方とお話しておりまし

たら、福島では今でも「長州」への恨みが息づいているそ



何食わぬ顔をしているのは

に残っていて、普段はどうということではなくても、何

かきつけがあるのと出てくるそうです。ですから、息

子さんが学校に通い出してからは、自分の実家が山口

だということは、あまり言わないようにされていたと

も。何も、福島の人が特別だということではないので

しよう。やられたことは、いつまでも覚えていますが、

やったことはすぐに忘れてしまう。これが私たち人間

の有り様ではないでしょうか。浅田正作さんは、阿弥

陀如来との出遇いを通して、自分の傲慢な姿に気付い

ていかれました。自分では見えない後ろ姿を抱えなが

ら、日々を生きている。見えなくても、それも私の紛

れもない真実の姿であると受け止めていく。「何食わぬ

顔」どころか、誤魔化すことなく、自分の姿と向き合

う浅田さんだからこそ、深く重い、謙虚さと他者へ

の敬い、そして感謝の心が感じられるのです。自分の

後ろ姿を想像することもなく、「何食わぬ顔」をしてい

るのは、一体誰なの

でしょう。そう考え

ると、思わずギクリ
としてしまいます。
秀
たった一言が人の心を
傷つける
たった一言が人の心を
暖める
極楽寺揭示伝道

10月の言葉

お取越しの季節です

お取越しとは、親鸞聖人のご法事「報恩講」を取越して(早めて)、各家々で勤めるといふ真宗門徒にとって大切な伝統行事です。ところが最近では、「どうして親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないのか」と言われかねませんし、「年に一度の先祖への供養」だと思われている方もあるでしょう。でも、大切な意味があるのです。

ある大学の先生が、学生に「子ども時代が一番幸福を感じた思い出は何か」と質問したそうです。すると、「どこへ連れて行ってもなかった」「何を買ってもらった」といった消費事、イベント事しか出てこない。「最近の学生は、そんなことしか思い出がないのか」とがっかりすると、ある方から、「それは質問が悪いですよ。消費・イベント以外の思い出を聞いたらどうですか」とアドバイスを受けました。早速質問してみると・・・やはりなかなか出てきません。ところがしばらくすると、「私は小さい頃、お母さんに靴下を履かせてもらった後に、おかあさんからクルツと足をなでられて、うれしかった」とか、「おばあちゃんの御見舞に行った時、電車の中で、隣に座ったおじいちゃんが、私の足を



トントンに支えられて、今まで生きてきたような気がします」と話してくれました。その時先生は、「最近の学生は、可哀相だ。大切なことを受け止める心は持っているのに、消費やイベントに覆われて、それが見えなくなっている。」と言われたそうです。

ある方から、「楽しいことはお金と時間があれば手に入れることはできるが、喜びはそれを味わう身に育てられなければ、味わうことができない」という言葉を教えられました。確かに、楽しみはお金と時間があれば、いくらでも手に入れることはできませんが、「もっと、もっと」と切りがありませんし、与えられていることに喜びを感じることができません。ければ、いつまでも満足も感謝もできません。実は、喜びを味わう身に育てて下さるのが、親鸞聖人が教えて下さった、お念仏の教えなのです。私たちの先輩は、お取越しという行事を通して、喜びを味わう身に育てられたのです。そんな世界に出会うことが、自分自身の人生を、そして周りの人、亡き人の人生を、より豊かで尊いものとしていただくことに繋がるのではないのでしょうか。



極楽寺だよりを送りませんか



最近では、都会に出られている方や有縁の方々にも、極楽寺だよりをお送りしています。小さな仏縁作りに、皆さんも都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えていただければ、お寺から直接、お送りいたします。